



西塔いづ子 議員

①介護保険制度について

平成27年4月から介護保険制度が改正される予定となっており、要支援1と2の方が利用している訪問介護と通所介護は、市町村が手立てをしなければならぬと思われる。国の補助対象となる事業費に上限があるため、市町村はボランティアに任せたり、事業者への支払単価を引き下げなければならぬ状況も懸念される。サービス低下につながり、要支援の方が重度化してしまうことなども考えられる。

この町で安心して生活していくために、町としてこういった制度改正をどう支援していくかと考えているか伺いたい。

改正内容の細部については、現在も国の審議会で検討されており、まだ明らかになっていない部分なども多いことから、町としては制度改正全体に対する具体的な方策等を申し上げられる段階

階にはありません。今後、国などから詳細な改正情報を得るよう努力するとともに、改正内容が明確に示された時点で、制度にあった予防サービス事業等について検討したいと考えています。

②農地中間管理機構をどのように見ているか

農地中間管理事業の推進に関する法律が昨年成立したが、10年かけて農地の8割を大規模化し、コメ等の生産コストを減らしていくという、TTPを見据えた考え方だと思っている。自然や生産物の価格はどうなるか想像もつかず、企業が参入しやすくなるなど、農地法を揺るがすものとなるのではないかと心配している。町の基幹産業である農業について、第5次中山町総合計画に示された方向に行かなくなるのではないかと不安もあるが、農地中間管理機構の創設をどのように考えているか伺いたい。

農地中間管理機構により、担い手への農地集積、耕作放棄地の発生防止、解消の抜本的強化を図ることを目的として、昨



学校給食共同調理場改築は平成27年3月に完成予定

行い、円滑な事業執行が図られるよう対処します。

給食センターは平成27年3月の事業完成を予定しています。中山中学校は平成28年3月に校舎、屋内運動場及び一部外構を完成させ、平成28年度新学期からの供用開始を予定しています。平成28年度中に旧校舎の解体やグラウンド整備、外構工事を行い、平成28年度をもって全事業完了を目指しています。

②いじめ対策について

いじめ対応については、学校の先生方が子ども達にど

れだけ寄り添い観察できるかが問題になる。町でも、教育委員会が積極的に指導し、巧妙化しているいじめ等を小さな芽のうちに発見し、解決に導いていかなければならないのではないかと。物言わない被害者を助けるため、今後どのような対策を考えているのか。

また、今年2月に山形県いじめ防止基本方針(案)が示されたが、教育委員会としてどのような対応を考えているのか。

いじめ早期発見の手立てとして、日々の子ども達の観察や生活ノート等の活用、教育相談、いじめ実態調査アンケート及びQ-U検査(学級満足尺度・学校生活意欲尺度)についてのアンケート形式による検査)の活用や家族との連携を考えています。

教職員が、いじめは絶対に許されない行為であるという決意と、いじめはどの子どもにも起こり得るという認識のもと、いじめ等の発見のためのアンテナを張り巡らし、子ども達の発する小さなサインを見逃さない不断の努力が求められていると考えています。

年12月に法律が成立し公布されています。

農地中間管理機構は、各都道府県に1つとされていることから、具体的業務は各市町村農業委員会と連携して進めていくことになるであろうと想定はされます。

しかし、詳細が現時点では示されていないことから、町としてどのように考えるか答弁できる状況にはありません。



鎌上 徹 議員

①給食センター・中山中学校の入札について

東日本大震災の復興事業や2020年の開催が決まった東京オリンピックなど、今後も建設資材の高騰や人材不足、労務人件費の上昇等が予想される。県内の公共事業においても、入札不調に至ってしまう事例が見受けられている。

給食センター及び中山中学校の改築事業を成功させるため、建設予定全般に影響を与える入札不調



中山中学校改築は平成27年3月に完成、平成28年4月から供用開始予定

を回避する対策、対応をどう考えているのか。

また、材料や人手不足による工期の遅れをどの程度見込んでおり、予定の平成28年度新学期からの供用が可能か伺いたい。

国では、公共事業の円滑な新単価適用の徹底、スライド条項の適切な設定・活用、適切な数量、施工条件等の設置等の実施を県及び市町村に対して要請しています。建設を進めるにあたっては、国県の対策を十分に検討し、適正かつ適切な設計積算、工期の設定等

なかやまタイムスリップ Vol.11 今から54年前... 1960 (昭和35年) 岩谷に電話開通



おなわられた。電々公社の資料電話開通計画は54年前、今年3月に当時の35年度も計画決定し、わが町が岩谷が指定になるまで、町では議公・役場・長崎郵便局の3者が再三にわたり協議をつづけていた。岩谷の完成で町内の無電地区は全く消滅したわけである。開通の念願が達された岩谷では6年11月に電灯がともった。のあかしとして、大よろこび。かかす。ついでに。四〇万円。は長崎局三。岩谷地区は最盛期には33軒ほどの方が暮らしていましたが、年々減少し、昭和56年を最後に集落がなくなつたんですも。

今では一人一台携帯電話を持つ時代になってきていますが、50年前は村に公衆電話が一台あるかないかでした。当時、岩谷十八夜観音がある金沢の岩谷地区では、公衆電話ひとつなく、連絡を取るのに非常に不便でした。そこで役場や長崎郵便局などが再三にわたり電話設置を当時の電電公社(現NTT)に要望。ついに設置が実現しました。延長3キロにわたる山村地帯に電柱を設置していくという難工事でしたが、岩谷では大正12年に電灯がともった時と同じくらいに大喜び。鈴木藤兵衛さん宅に設けられた念願の電話で心から通話を楽しんでいました。